

町史だより



『西原町史』発刊に向けて⑨

新しい年となりました。皆さん、今年
の目標はもうお決まりでしょうか？ 新
しい年を迎えると気持ちも新たに何かを
始めたい気持ちになりますね。



現在、西原町立図書館町史編集係では
『資料にみる西原 ビジュアル版』発刊
に向けて西原の略年表を作成していま
す。今回はその略年表から、西原のあゆ
み〔一九〇一（明治三十四）年〜一九一
五（大正四）年〕を紹介します。

一九〇一（明治三十四）年
海外移民が本格化（一八九九年に海外
移民開始）

西原村で初めて海外へ渡ったのは、一
八九九（明治三十二）年十二月にハワイ
へ向かった字呉屋出身の呉屋次良氏で
す。一九〇四（明治三十七）年〜一九四
一（昭和十六）年までの西原村出身者の
海外旅券下付数は二、五二四人を記録し、
沖縄県内市町村のなかでも移民数の多い

村でした。

※下付 政府・役所などから書類をその人に渡すこ
と（『新明解国語辞典 第四版』三省堂発行より引用）。



1910(明治43)年
小橋川我光氏 他4人(ハワイにて)
〈小橋川秀康氏提供〉

一九〇七（明治四十）年
沖縄県糖業改良事務局、我謝に移転

沖縄県糖業改良事務局は、製糖事業の
改革と模範工場設置のためにつくられた
国の機関でした。

我謝に建設された工場は、約一五、五
〇〇坪と広大なもので、敷地のなかには
サトウキビの試験地や栽培地、官舎、製
糖工場、事務所、道路などがありました。

一九一四（大正三）年
大城（助泰）式製糖機試運転

それまでは、圧搾機あつせき
（方言…サーターグル
マ）で自家製糖を行っ
ていましたが、字小橋
川出身の大城助素氏に
よって画期的な圧搾機
が開発されました。こ



大城助素氏
〈小橋川自治会提供〉

の開発は、県内の黒糖

製糖を大きく発展させ
たといわれています。

当時の新聞紙面には、
字小橋川の砂糖小屋
（方言…サーターヤー）
で試運転が行われ、多
数の来賓らいひんが出席したと
いうことが取り上げら
れています。



自家製糖のようす 〈小橋川自治会提供〉

一九一四（大正三）年
沖縄人車軌道（与那原〜小那覇間）開通

鉄軌道てつこうが与那原から小那覇までの道路
脇に敷かれ、馬車軌道による客員輸送が
始まりました。軌道は順次延長され、二
年後の一九一六（大正五）年には与那原
から泡瀬まで利用できるようになりまし
た。

一九一五（大正四）年
御大典奉祝余興・西原村綱引き挙行

西原小学校前馬場で、御大典奉祝余興
として西原村大綱引が行われました。一
九一五（大正四）年十一月十四日に予定
していましたが、大雨が降ったため延期
となり、翌十五日の開催となりました。

■参考文献 『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社発
行『西原町史』第四巻 資料編二 西原の民俗／『西
原町史』第六巻 資料編五 西原の移民記録／『西
原町史』第七巻 資料編六 西原の産業

『西原町史』

★全巻セット価格 1万円★

- 第2巻「西原の文献資料」 ¥1,500-
- 第3巻「西原の戦時記録」 ¥1,500-
- 第4巻「西原の民俗」 ¥1,800-
- 第5巻「西原の考古」 ¥1,200-
- 第6巻「西原の移民記録」 ¥1,200-
- 第7巻「西原の産業」 ¥900-
- 別巻「西原の民話」 ¥1,800-
- 『戦災被災者記録』 ¥900-
- 付属刊行物「西原町の自然」 ¥300-
- ガイドマップ「西原の自然と文化」 ¥100-

